

昭和電工株式会社 2021年3Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2021年11月10日（水）17:30～18:30
説明者：代表取締役 常務執行役員 CFO 竹内 元浩
*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 原材料価格や運賃等の原価高騰分を販売価格へ転嫁しているか。

A 原価上昇分はコストダウンを積極的に進めつつ、販売価格に転嫁していく方針であり、着実に交渉を進めている。フォーミュラ制を導入している製品は、タイムラグはあるものの利益影響はない。

Q 昭和電工マテリアルズとの経営統合は、今後どのような効果を見込んでいるのか。

A 意思決定やスタッフ部門の一体化など、様々な点で効率化を進め、速やかに効果を積み上げていきたい。

Q 先日発表した社長交代、昭和電工と昭和電工マテリアルズの社長を統一したことのねらいを教えてください。

A 両社の統合作業は順調に進んでおり、大きな変化が生じている。そのような環境下、高橋を両社の新社長とし、統合を加速度的に進めていくことを意図した。

Q 社債発行の目的と、今後の支払利息の軽減による財務インパクトはどの程度か。

A 両社統合が着実に進んでおり、2022年1月の実質統合による財務リスク抑制というノンリコースローンの目的が達成されることから、足元の金融環境等を勘案し一部返済する方針を決定したため。また、財務面では年間約10億円の支払コスト改善効果と返済時期の分散効果を見込んでいる。

【エレクトロニクスセグメント】

Q スマートフォン、PCの需要は足元で減速感が出てきているが、HDへの影響は。

A 当社のHDはデータセンター向けニアライン用途が多く、足元大きな影響はない。

Q SiCエピソードの今後の見通しを教えてください。

A 複数の大手SiCパワー半導体メーカーのお客様と長期契約を結ぶことで足腰を強くすることができてきており、今後のさらなる成長を実現させていきたい。

【無機セグメント】

Q 黒鉛電極の2Qと3Qの販売数量と販売価格は。

A 黒鉛電極の販売数量は2Q、3Qとも4万トン程度。3Qの販売価格は2017年比で2倍弱の水準。

Q 黒鉛電極の4Qと2022年の数量・価格については。

A 下期の販売数量は上期7万トンから20～30%程度増加する予想通りの進捗。4Qの販売価格は3Q比10%程度上昇し、2017年比で2倍程度の水準。来年上半年の販売価格は足元の交渉状況を踏まえ3倍弱の見通し。来年の年間販売量は、現時点では今下期の数量を年間に引き延ばした水準になると見ている。

【昭和電工マテリアルズセグメント】

Q 3Qは2Qから売上高は横ばい、原材料や運賃などのコスト増という中で、増益を確保した背景を教えてください。

A 情報通信の好調に加え、原材料高騰等の中でコスト改善施策を実施した効果が出ている。足元では半導体供給不足による自動車生産台数の減少で、モビリティや蓄電デバイスの落ちこみが懸念材料。

以上

* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。
・COVID-19拡大が世界経済に与える影響、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2021年11月10日発表の弊社決算短信をご参照ください。